「平和の郷～Abode of Peace～」と称されるブルネイ・ダルサラーム。豊かな自然とイスラム文化が深く根付いた穏やかな人々、そして豊富な石油資源の恩恵により、国民は高い教育水準と先進医療が保証された豊かな生活を送っている。イスラム教徒が夜明けから日没にかけて断食を行う「ラマダン」。この時期にブルネイを訪れ、「ラマダン」期間ならではの特別な旅を取材した。

取材協力=国際機関日本アセアンセンター
駐日ブルネイ・ダルサラーム大使館

モスク前の広場、ブルネイ・フレームの近くで断食明けまでの時間を家族で楽しく待つ人々

Abode of Peace

# 「ラマダン」期間だからこそ体験できるブルネイの特別な旅

## ブルネイ国民が楽しみにする「ラマダン」とは

ボルネオ島北西部に位置するブルネイ・ダルサラームは、イスラム教徒が多く、その伝統や文化が人々の暮らしに深く根付いている。「ラマダン」は、イスラム暦の聖なる月とされ、世界中のイスラム教徒が夜明けから日没まで約1か月にわたり断食を行う期間である。日中は食事のみならず水も口にできない。

「1か月にわたる断食」と聞くと、厳格で忍耐を強いられるものと想像しがちだが、実際にブルネイを訪れてみると、意外にも穏やかで温かい雰囲気に包まれていることに気づく。

今回の取材でブルネイに到着したのは、ラマダン初日の夕方。スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モスクの目の前の芝生の広場を訪れると、家族連れが集まり、レジャーシートを広げて談笑しながら日没を待っていた。子どもたちが遊ぶ様子はまるでピクニックのような光景だ。そのおだやかな様子に拍子抜けしてしまった。

やがてモスクから断食明けを告げるアザーン（礼拝への呼びかけ）が響く。食事開始の合図となるが、ガツガツとディナーが始まるかというとそうではない。静かに、そして穏やかに食事を始める姿が印象的であった。

今回の取材で案内を務めた旅行会社のハジラさんにラマダンについて尋ねると、「ラマダンが大好きです。勤務時間が短縮されるので、家族と過ごす時間が増えるのが嬉しいですね。ラマダン明けには親族が集まり、お揃いの服で記念写真を撮ったり、ご馳走を囲んで祝ったりします」と語る。また、「この期間だけの特別なマーケットが開かれ、夕方になると屋台に美味しい料理が並ぶので、見て回るのも楽しい」とも話してくれた。

ラマダン期間中には、特別な屋台があちらこちらで出店する（STADIUM NEGARA BASSNWAL BOKIAHのフードマーケットの様子）

ラマダン期間中はレストランの営業時間が通常と異なるが、旅行者向けにホテルでは朝食を弁当形式で提供したり、特別な朝食会場を設けたりといった配慮がなされている。公共の場での飲食は禁止されているものの、屋台で購入した料理をツアーの車内で楽しむことは可能であり、普段とは異なる食体験ができるのも魅力のひとつである。

## ブルネイの郷土料理を体験 いまブルネイはカフェがブーム

日が暮れると断食が明ける。今回は、ブルネイのソウルフード「アンブヤット」を提供する「Teratak Setiawan」を訪れた。水上に建てられた高床式の伝統家屋を活用したレストランで、オーナー家族の手作りの伝統料理を味わうことができるのに加え、宿泊施設を提供している。

ブルネイのソウルフード「アンブヤット」を振舞ってくれる（水上集落のレストラン「Teratak Setiawan」）

「アンブヤット」は、サゴヤシの粉を湯で練り上げたもので、日本の餅をさらに柔らかくしたような食感が特徴だ。できたてが一番美味しいという。「アンブヤット」自体に味はないので、添えられるソースなどと絡めて食べる。おかずには、空心菜の炒め物や鶏肉のカレーなど。独特のスパイスが効いているものの、辛すぎることがなくまろやかで、日本人の口にもよく合う。

食後には、お母さん手作りのブルネイの家庭の伝統菓子をいただいた。お菓子は素朴で優しい味わいでお茶と一緒にいただく。ブルネイの人たちがこうした愛情のこもった料理を家族みんなで味わう和やかな雰囲気を体験できた。

また、ラマダン明けには、どこの家庭でもカラフルで手の込んだケーキが振舞われる。このケーキを販売するのが「サフィラ・ケーキ・ハウス」。見た目も美しく、小さくスライスしていただくと、濃厚な味わいが口の中に広がる。

ラマダン明け食べるカラフルなケーキは濃厚な味わい（「サフィラ・ケーキ・ハウス」）

ブルネイでは、伝統菓子を提供する喫茶店のほか、コロナ禍以降に若者たちが次々とオープンさせたカフェがブームとなっている。今回訪れた「YUZU」は、予約必須の人気店。住宅街の一角にひっそりと佇み、扉を開けると洗練された空間が広がる。

思わず写真を撮りなくなる人気カフェ「YUZU」

## 熱帯雨林の自然の中に身を置き 地上43メートルから森を一望

ブルネイは国土の約70%が熱帯雨林で覆われている。テンブロン地区にある「ウル・テンブロン国立公園」は、ブルネイ初の国立公園。1億3000千万年以上前に形成された世界最古の熱帯雨林が広がるエリアだ。

中心地から車で約1時間、さらにボートで約45分。深い森を抜け、熱帯雨林の山を登り、川にかかる吊り橋を進んだ先に現われるのが高さ43メートルの「キャノピーウォーク」。鉄塔を上り、足は震えながらも眼下に広がる密林を一望すると、その景色は格別。真っ青な空と森の緑と一体化したような爽快感が味わえる。

山から下りた後は、足を濡らしながら小さな川を進んでいくと、マイナスイオンたっぷりの滝が姿を現す。滝壺には「ドクターフィッシュ」が生息し、足を水につけると、くすぐったい感触が楽しめる。

高さ43メートル、足が震えながら世界最古の熱帯雨林を一望する

滝つぼにはドクターフィッシュがうようよと

ハイキングの拠点となる「SUMBILING ECO VILLAGE」のランチ。この地方のならでは料理が振舞われる

## 世界最大級の水上集落を訪ねる マングローブの野生動物ツアーへ

ブルネイの観光の魅力のひとつが、見どころがコンパクトにまとまっている点にある。中心地の水上タクシー乗り場から約15分、世界最大級の水上集落「カンポンアイール」のエリアを眺めながらマングローブが生い茂る水路を進むと、ボルネオ島固有種で絶滅危惧種のテングザルやワニを観察できる。このテングザルはほかの国であれば、車で4時間ほど森を進まないと出会うことができないが、ブルネイなら手軽に観察に行けるから驚きだ。

水上集落には、36の村があり、家々が木製の通路で結ばれている。学校や消防署、体育館や集会所など、水上で完結する独自の生活文化が息づく。ツアーで水上集落の家庭を訪れた。ブルネイでは、家族や親戚がよく集まるので、どこの家でも大勢が集まれる大きなリビングルームがあるという。そしてそこには国王や王妃の写真が飾られている。外見は素朴ではあるものの、冷房やWi-Fi完備など近代設備が揃っており、通常の住宅となにも変わらない。こうしたブルネイならでは生活様式を見られるツアーは、異国情緒を掻き立て、趣深い体験となること間違いなしだ。

水上集落の住居を結ぶ橋の上で記念撮影

## モスク訪問やイスラム芸術に触れ ブルネイの奥深い文化を知る

ブルネイを代表する建築物のひとつが、「ジャメ・アスル・ハサナル・ボルキア・モスク」と、先代国王ゆかりの「スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モスク」である。どちらのモスクも、その豪華な佇まいと曲線が生み出す美しさに圧倒される。ラマダン中は内部を訪問できる時間が限られているが、時間を合わせてぜひ訪れてみたい。

アラビア文字のカリグラフィーアートの実演

さらに、アートに興味があるなら、ヤヤサン・イスラム書道センターを訪れ、イスラム美術に触れてみるのもよい。アラビア文字を用いたアート作品の展示や書道体験などのプログラムが用意されており、日中の暑い時間帯に訪れれば、静寂に包まれた空間でアートの世界に浸ることができる。

## ブルネイのラマダン限定 特別な過ごし方を提案

家族を大切にするブルネイの人々の穏やかな国民性とイスラムの豊かな文化が作りだす、ブルネイの「ラマダン」体験。大自然の中に身を置きリフレッシュするのもよし、美術館や博物館を訪れて、その歴史や文化を学ぶのも良いだろう。また、一緒にプチ断食体験を取り入れてみるのも面白いかもしれない。屋台料理のさまざまな味わいが染み渡るはずだ。

現地のショップでお気に入りのスカーフや伝統衣装をみつけてモスクを訪れるのも楽しい

現地のショップでお気に入りのスカーフや伝統衣装を購入し、モスクを訪ねれば、より深くブルネイの文化に浸ることができるだろう。この特別な時期にこそ、ブルネイを訪れる旅をぜひおすすめしたい。